

合同清掃後の土居高校生の感想

平成24年3月12日、土居高生、ソロプチミストイースト愛媛、伊予土居ライオンズクラブ、ラブリバー会員合同で河川清掃を行いました。



◆曾我部 貴大

私は、ラブリバーという河川敷の清掃活動に参加して、たくさんのゴミをひろいました。去年もラブリバーに参加したけどあんなにゴミがたくさんありました。どうしてゴミがなくなるのか、思いながらゴミをひろっていきましました。なかには電子レンジや看板など大きなゴミもありました。こういったゴミを捨てるのは不法投棄という犯罪です。自分のつごうでこんなところにゴミを捨てないでほしいと思いました。

地球はゴミのポイ捨てなどによって海や川が汚れて環境問題になっています。このままでは、自分たち人間や他の生物たちも住みづらい環境になると思います。こうなる前に、みんながゴミのポイ捨てはダメという意識を持ってゴミが捨てられるということはなくなると思います。簡単なことなのに、そういった気持ちを持つとしないので実現は難しいと思いました。がんばってほしいと思います。

ゴミ集めが終わってたくさんのゴミが集まっているのを見ました。やっぱりこういった活動をずっと続けていかなければならないのかと思うととても悲しい気持ちになりました。はやくゴミを捨てるということがいけないということがわかってこういった活動がいつかはなくなるように信じたいと思います。



◆石川 奏

私は、先日のラブリバー活動をして思ったことがあります。それは、毎回のゴミの量が少しずつ減ってきているな、ということです。私が一年生の頃、初めてこの活動をしたときは、トラックにいっぱいゴミが集まっていた記憶があります。今年は少ないように感じました。

一緒に活動した人の話で、「君達が大人になったときにこのような活動をしないでいいように」と言っていた言葉が心に残っています。生活していたら、ゴミは出てしまいます。故意に捨てない、なんてあたりまえですが、日常では電車の中や駅でわざと置いて帰ったのではないかなと思うこともあります。私は、そんな光景を見ると「後始末をしっかりすれば、周りの人も気持ちがいいのかな」と思います。そして、自分がゴミを落としていないか、無駄に出していないかと改めて見直すきっかけとなりました。

ラブリバー活動を続けることで、視点が少し変わってきました。今までは、ゴミが捨てられているから拾う、自分も平気でゴミを捨てるような人にならないと思っていました。今は、大切なことはゴミを捨てるにいい環境を作ることではないかと思っています。私達が活動することで、それを見た人が改めて意識すると思います。一人一人の小さな行動が、捨てていた人の気持ちを変えてくれます。なので私は、これからもゴミを見たら自ら進んで拾うようにします。そして、ラブリバー活動や地域のふるさと運動に積極的に参加して皆でゴミの捨てにくい環境を作りたいです。

◆森田 憂

私は、今回初めてラブリバーという活動をしました。内容は土居の河川敷に落ちているゴミ等を拾いキレイにするという活動でした。

缶やビン、お菓子の袋が落ちていました。このゴミは誰かが勝手に落としてゴミとなったものなので、ゴミはきちんと決められたところに捨ててほしいです。

一人一人がちゃんと意識していればゴミは減らせるので常に意識してほしいです。でも、以外とゴミは少なかったです。先生の話の中でも、年々ゴミは減っていると聞いていたので、先輩たちがやってきたラブリバー活動も役に立っているんだなと実感しました。このようなボランティア活動も、学校の中では経験があっても、自分から積極的にすることはないので、機会があれば、自分からチャレンジしていきたいです。

自分も十分に注意してゴミが出たら、きちんと捨てる場所に捨てていけるようにしたいです。今回はラブリバー推進協議会の人達と一緒に活動し、一年生、二年生とも協力しながら河川敷の清掃ができてよかったです。私も一度、地域でのボランティア活動に参加したことがあるけど、地域の人達と協力して自分達の地域をキレイにしていくことは、とても良い経験でした。

◆栗原 明日香

昨日のラブリバー活動で、河川敷の清掃を行いました。河川敷は思っていたより、きれいでしたが、たばこのすいがらや空き缶、アメのカスなどの小さなゴミがたくさんありました。中には粗大ゴミのようなものもありました。このラブリバー活動で、河川敷のゴミは減ってきていると言っていたけど、まだ完全になくなったわけではないので、一人一人がゴミのポイ捨てをしてはいけないという意識をきちんと持つことが大切だと思います。

ラブリバー活動では、河川敷の清掃しかしていませんけど、普段の学校の登下校で通る道にもゴミが捨てられているところを見かけることがよくあります。ラブリバー活動だけでなく、普段からゴミが落ちていたら拾う習慣を身につけることが大切だと思います。

私は小学6年生の時の家庭科で、家の近くの道のゴミ拾いをしたことがあります。その時したのは、家の近くだけだったのにたくさんのゴミがありました。ゴミが落ちているのを見かけたら、拾うということをしていくと少しずつだけ、減っていくと思います。最初から道に落ちていくゴミを拾うのは難しいと思います。だから、身近なことからやっていくことが大切だと思います。「消しカスを落とさない」とか「教室にゴミが落ちていたら拾う」などといったことです。まず、教室といった身近なところから始めると、思ったより簡単にできるんじゃないかと思えます。教室をきれいにできないうと、地域をきれいにすることなんて、絶対できないと思うので、まずは身近なことからやっていきたいです。

◆星川 護

先日のラブリバー活動は、とてもやりがいがあった良かったです。集めたゴミの量は少なかったけれど、話では毎年減ってきていると言っていたので、この活動や夏にしているゴミ拾いは、意味のあることだと思うと、とても嬉しいし、毎年このような活動をしたいと思いました。

小学校、中学校とずっとしてきていて今までは、めんどくさいとか、言われたからしているとか思っていたけれど、高校に入ってから、河川敷の掃除をしていて、楽しい、掃除をして良かったと思えてきました。グリーンコースでも似

たような活動をしているからこそ、今では楽しいと思えるようになってきたと思います。

掃除をしていて驚いたのは、家電製品が落ちていたことです。看板があったのも驚いたけれど、それは風で飛ばされてきたのかもしれないけれど、電子レンジが落ちていたのは理解できませんでした。わざわざ橋の下に捨てていくのはどうかと思います。山に捨てたり、処分はするけれど処分したくずを埋めたり、海に流す人もいるというのを聞いたことがあります。そういうことをする人達には罰金とかあるけど、外国では、それに加えて地域社会に役立つ仕事をしなさいと言われる国もあるようで、その取組みを日本でもしたら、ゴミのポイ捨てをする人が減って、きれいな環境を保てる社会になるんじゃないかと思えます。

◆大西 千晶

今年のラブリバー活動では、去年よりゴミの量が少なくなっていたところもあるけど、人がほとんど通らないところや目に付かないところにゴミを捨てていて、ビンが多かったのが大変でした。

階段の端やその周りにタバコの吸い殻が多かったです。家族などで遊びに来たときにゴミを捨てているのがほとんどだと思います。自分が出したゴミは、持って帰ってほしいです。もしくは、ゴミ箱があればゴミ箱に入れてほしいです。一人一人が気をつければゴミの量は減ります。関川河川敷を掃除して、私たちの先輩たちの方がゴミの量があったのがびっくりしました。毎年のようにゴミの量が減っているのはいいことだと思います。このままいくと、ゴミはなくなっていくと思います。

私は、人目の付かないところや人のいないところにゴミを捨てるのは、いけないことだと掃除をして思いました。身近なところでゴミを捨てると、捨てていない人々がゴミを拾うことになって、捨てた人が拾わなくてもいいことになるので、捨てた人が責任を持ってゴミを持って帰るのが、ゴミの量を減らす一番の方法だと思います。

◆葛城 梨乃

ラブリバー活動を終えて、さまざまなことを学ぶことができました。

一つ目は、ゴミを拾うときに自分はどうなことを考え拾っているのかということ、やっぱり自分たちの住む町の川だしきれいにしたいという気持ちから行っているということです。その気持ちに気づけたことがよかったです。二つ目は、協力することの大切さです。一人ではどうい川をきれいにすることが出来ません。みんなで協力しながらからこそ、きれいになってくると思います。みんなが頑張っているからこそ私も頑張ろうという気持ちになってくるので、みんなが何もしなかったとしたら、私もやる気が起きないし、する気にもなっていないかと思っています。そのことから、やっぱり一人一人が頑張ることによって周りに影響し、また一人一人のやる気へとつながってくると思いました。

今回のラブリバー活動を通して、普段では気づけない小さなことに気づくことができ、本当によかったと思います。そこから学んだことは、そのままにせず、これからの学校生活に生かしていきたいです、そのためにはまず、周りのことを考え行動することを忘れず、自分の行動を見て改善できることがあれば改善していきたいです。



◆石川 大我

昨日行ったラブリバー活動では、河川敷のゴミ拾いをしました。河川敷に、こんなにもゴミが落ちていると思いませんでした。その中でもたばこの吸いがらや缶などがたくさん落ちていました。このラブリバーを通してしっかりとゴミを拾っていきたく思いました。ゴミが減っていきたく思いました。これでゴミを捨てる人がなくなるといいと思いました。

僕は、たまに道にゴミをポイ捨てしてしまうのでポイ捨てをしないようにしてゴミを拾っていきたく思っています。車の中からタバコの火がついたままタバコを捨てている人を見かけます。道ばたにもゴミがたくさん落ちているのを見かけます。その時僕は、気づいていても拾わないので、これからはしっかりと拾っていきたく思っています。

僕は、ラブリバー活動は初めて体験でした。ゴミをひろっていく度にゴミが減っていいなあと思えました。これで誰もゴミを捨てないようにしてほしいと思えました。この経験をいかしていきたいです。

◆小出 晃穂

ラブリバー活動を通して思った事は、地道な活動を続けていると少しずつだけ変わっていくという事です。ラブリバー活動では、土居高校だけでなく、ソロプチミストイースト愛媛の方々も来てくださって、ただの学校行事ではないのだと思えました。

清掃活動をして思った事は、一見きれいに見えても、近付いてよく見てみると、かなり汚れている事です。缶や紙くずのような普通のゴミや、何でこんなものがこんな所にあるのかと思うようなものまで落ちていてびっくりしました。捨てられてからかなり時間が経っていて、砂をかぶっているものもありました。かなり広い川なので、実際にやってみても大変でした。こういう活動をしていくうちに、少しずつきれいになっていくんだらうと思えました。

次に思った事は、なぜ川にゴミを捨てるのかという事です。川はゴミを捨てる所じゃないし、小さなゴミを流すところでもないで、間違っていると思えました。

私は今回活動をしてみて、捨てて汚すのは簡単だけど、それをきれいにする事の大変さを学びました。この事をこれからの生活に生かしていきたいです。



「ラブリバー・せきがわ」に 思うこと

土居中学校
校長 羽賀 公彦

私が新米の教員のころ、今治市の自然科学教室という子どもと教師の集いの中で「関川」という河川名を何度も尋ねられました。土居町と言えば、「関川」といった感じの知名度の高さで、理科の先輩諸氏のフィールドワークの話がたくさん聞かされました。河川がもつ多種の岩石の宝庫として地元以上に知られているのではと思われました。また、関川小学校に勤務した五年間では、水源上流の東赤石を毎年登り下りしたことや、熊谷橋付近からの四季折々の風景も忘れられません。

急峻な山々の深い谷を削り、平野部での氾濫を幾度も繰り返した河川ですが、人々にも豊穡の恵みをもたらす今に至っています。

この地で暮らす子どもたちが折に触れ、「関川」に親しみ、共に自然とふれあいながら、少しずつではありますが、地域と自然を慈しみ、自分にできることを気づき、僅かな一歩を踏み出してほしいものと願っています。子どもたちの感想の中に、一人一人のラブリバーの活動が、自分づくりの一コマコマとなっていることに気づかれました。より多くの子どもたちがこの運動に関わりながら、心豊かな仲間を輪を広げてほしいと思います。



ラブリバー活動を行って

土居中学校 卓球部

◆高橋 諒多

僕は、ラブリバー活動をしました。小学校の時も、何度かラブリバーに参加しました。その時は、「なぜ、ぼくがこの活動をしなくてはならないの」と疑問とめんどくさい気持ちがありました。そして、いざラブリバー活動してみると、すごくきれいな川や道がありました。その時はすごくしょうげきでした。自分の町がこんなにきれいななんて。そして、自分の町なのに、ゴミをすてる人がたくさんいるんだなんて。

だから、考え方がすぐ変わりました。自分の町は自分できれいにしなくては…と。その時から、僕は、学校の中の落ちているゴミなどを見つければ拾っていました。

そして今日は、またこういう機会をもらって、川をきれいにする活動をしました。まず、川を見て思ったことは、前よりゴミがすごく少なくなっているな…ということです。すごくうれしかったです。

でも、前よりは確かに減っていましたが、ビニール袋や、プラスチックなど、燃えないゴミがありました。僕は、埋まっている鉄をどうしても拾いたくて、それに時間をつかいました。理由は、もし、そこで川遊びをしていて、その鉄に足をもっていけばがしてしまうのではないかなと思ったからです。結局、全ての鉄はのけきれなかったけど、人のためにできたことは自分にとってプラスになったと思います。きれいになった川を見て、まだまだ少しきれいになりたいと思う自分がいました。30分しかできなかったけど、少し悔いが残ります…

これからも、このラブリバー活動を通して、学校生活などで見つけた小さなゴミなどを拾って捨てたいと思います。

こんな小さなことも、みんながすれば、大きなことになります。いつも意識していきたいです。いつか、きれいな町を…

◆野村 京介

僕は、今日、ラブリバーの活動をしてみて、見た目は、ゴミとかが落ちていないようなのに、よさがしてみるとたくさんゴミがあったのでびっくりしました。僕が拾ったゴミは、何かの鉄の部品や、自転車のタイヤのゴムや、ビニール袋などです。捨てられているのは処理の難しい物ばかりだと思いました。「どうして処理の難しい物ばかり捨てられているのかな」と思いました。捨てている人は、どうとも思わないのかなと思いました。

この活動をして、僕は「身近なゴミは、ちゃんと拾ってゴミ箱に捨てるのが大切だ」と思いました。

◆越智 亮輝

今日は、ラブリバーの活動を、関川でしました。はじめは、いやな気持ちが強くて、本当はあまりやりたくないと思っていました。

燃えるゴミや、燃えないゴミ、プラスチック、金属などのいろいろな物が落ちていて、はじめはビックリしました。でも、たくさんゴミを拾っているうちに、だんだん楽しくなってきました。今日した活動は、絶対に、これからの生活にいかされると思いました。

ぼくが拾ってビックリした物は、フクロウの置物です。ヒビがはいっていたり、色がはげていたりして、とてもとても

使えそうにはないけれど、落ちていたことじたいがとてもすごいと思いました。

みんなでゴミを拾ったから、たくさんのいろんなゴミが集まったと思います。そのおかげで、河原もきれいになったし、チームのみんなの団結力も深まったと思います。

なので、これからは、地域にゴミが落ちていたりしたら、拾ったり、周りの人のために、役に立つことなどをして、どんどん、ゴミ拾いや掃除を好きになっていける人になればいいと思います。あと、絶対にゴミを周りには捨てずに、ちゃんとゴミ箱に入りたいです。

今日は、自分にとっても勉強になったし、とてもとても楽しかったです。

◆真鍋 優希

僕は最初先生から話を聞いた時、「卓球部だから仕方ないな」というきのりしない気持ちでした。

やってみると気持ちがスッキリしました。実際には、ナイロン系の袋が10枚近くあって、お菓子のかすもすごく多かったです。ペットボトルも2本あってたくさん落ちていたなど思いました。

ゴミは草の上流側についていましたが、中には草の中に捨てられているのもあって、上流側は川の流れだろうと思ったけど、草の中の物は人が捨てたんだらうと思いました。こういう活動を僕は何度かしましたが、終わると必ず気持ちがスッキリします。少しでも地域の役に立つとか、ほめられるというのがあるけど、一番は、自分が一番気になっている事ができて、その達成感が強いんです。今回もそんな気持ちです。どうせまたよばれるからといってやらない人もいますが、1人になってもこういう良い活動は続けていきたいです。目的は違うけど気持ちは同じ、安藤正楽さん(だったと思う)の事も勉強したから、一生同じ気持ちで行動していくと思います。また、「はちどりのひとしづく」のはちどりにもおきかえられれると思います。というか同じです。「自分に今できる事をせいっぱいやっているだけ」というせりふがすごく頭に残っていて、同じ気持ちだと思います。

こういう活動をして、気持ちを変えて、もっと優しくなって、皆に地球に対し、優しくなりたいと強く思いました。

これからもこういう活動を続けていきたいです。

◆河村 優衣

私は町のゴミ拾いの活動はしたことはありましたが、川の掃除は初めてでした。初めて掃除する川には落ち葉、木の枝などがたくさんありました。初めはそこまでやる気はありませんでした。水にひたした葉は最悪の手ざわりでした。でも人間が捨てたゴミが少なかったのはよかったです。

石のすき間をまずきれいになりました。それをけっこうやりました。それはあまりきれいにならなかったのですがほうきを使いました。ほうきは腕がだるくなるけど、落ち葉を集められどんどんきれいになり同時に達成感がありました。これから私はやる気が出てきました。それから時間が過ぎるのが早かったです。

もう終わるといのがいやで、最後までやりとげたいという気持ちになりました。初めはあんなにやる気がなかったのに、

もっときれいにしたいという気持ちになった自分に驚きました。一所懸命やることで自分の気持ちがいい方に向かっていきました。掃除をしていなかったら、川が汚れていてもなんとも思っていなかったと思うし、やったからこそ得られるものがありました。

◆筒井 万莉也

部活の部員みんなで初めて川の掃除をしました。川は落ち葉や、ゴミなどで汚れていました。燃えるゴミ、燃えないゴミなど集めるのは大変でした。残念ながら、川の水が流れている所のゴミは取ることはできませんでした。

みんなでゴミを集めていくと、さっきまで散らかっていた川がだんだんきれいになり、とてもいい気分になりました。

ゴミを集めていると、考えられないものが捨てられていました。何でたくさんのゴミを川にすてるのかな?と思いました。ゴミはちゃんと家に持ち帰るのが基本ではないかと思いました。ゴミを拾っていると地域のおばさんが、「ありがとう」と言ってくれました。そのとき私は川の掃除をしてよかったと思いました。

私はもっともっと川をきれいにしたいなって、目についた草を取ることにしました。川はとってもきれいになり、なんだか達成感がありました。

ほんとうに川の掃除をして良かったと思いました。

◆岸 千尋

今日は卓球部のみんなで川の掃除をした。はじめ川を見て、ゴミがいくつか落ちていてびっくりした。私をはじめ取ったゴミは「虫とり用のあみ」だ。なぜ、こんなところに落ちていたのかとても不思議だった。だれかが捨てたのかと思うと本当に悲しい。

そんなことを思いながらゴミを拾っていた。ゴミは少ない方だったけど、拾っただけで、とてもスッキリした。

みんなで拾うとすぐに拾えたので、学校からほうきなどを持ってきて、草引きをしたりほうきではいたりした。私は、ほうきで葉っぱをはいたらけっこうな量になって、周りがだんだんきれいになっていって、うれしかった。それにみんなで協力して掃除をすると、早く終わるし楽しかった。掃除を続けていると、おばあさんが「掃除してくれよう?ありがとう」と言ってくれて、心が温かくなりもっと掃除しようという気持ちになった。先生が「もう、そろそろ掃除終わろう。」と言ったけど、まだまだしたいと思った。だんだんきれいになっていく川を見ていたら、今日は掃除をしてよかったと幸せな気持ちになった。ゴミ袋4袋ぐらいの草やゴミを拾い、つかれたけど、いい経験になった。これから、今日ボランティアしたことを忘れずに、地域の行事や困っている人がいたら手助けしたりしていきたい。

この掃除を通して卓球部員みんなの絆が深まったような気がする。これからも進んでボランティアをしていきたい。